

日本骨髄バンクの現状（平成 21 年 10 月末現在）

	9 月	10 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,198	4,345	349,707	445,900
患者登録者数	231	179	2,679	28,759
骨髄移植例数	95	107	-	11,052

20 歳未満のドナー登録者数

10 月 344 人

合計 10,889 人（17 年 3 月～）

51 歳以上のドナー登録者数

10 月新規 136 人

延長 232 人

合計 16,331 人（17 年 9 月～）

10 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム / 1,034 人、献血併行型集団登録会 / 2,825 人、集団登録会 / 379 人、その他 / 107 人
注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

先月号「国際協力の現状」で、＜海外ドナー 国内患者＞累計移植数：188 件、＜国内ドナー 海外患者＞累計移植数：159 件とありますが、正しくは＜海外ドナー 国内患者＞累計移植数：159 件、＜国内ドナー 海外患者＞累計移植数：188 件です。また「認定施設別の移植・採取件数」の数字に誤りがあったため、11 ページに訂正版を掲載します。併せてお詫びいたします。

1 骨髄バンク推進月間について

10 月は骨髄バンク推進月間でした。今年も全国でドナー登録会をはじめとする多数のイベントが行われた他、テレビやラジオの政府広報番組でも骨髄バンクが紹介されました。今年も 2 年に 1 度の東京モーターショーが開催されたことなどから、昨年を超える 4,345 名の方にご登録いただきました。登録をしていただいた方をはじめ、ご協力いただいた関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

2 コーディネーター制度の見直しと「コーディネーションスタッフ」募集について

コーディネーターの処遇および制度の見直しについて、10 月 22 日の常任理事会において審議、承認され平成 22 年度より導入の運びとなりました。今回の見直しでは、将来展望検討会議において指摘された課題であるコーディネーターの二本立てという格差を公平性という観点から解消するため、処理件数に応じて報酬を支払うコーディネーター制度に一本化することとしました。また、現時点で可能な範囲での処遇改善を実施しますが、この点についてはなお今後とも努めていきたいと考えています。

なお、「職員コーディネーター」の仮称で新たに地区事務局に置くことを検討していた職員について、常任理事会のメンバーやコーディネーターから名称に関するご意見をいただきました。各地区事務局代表からの意見も募り中央事務局で検討した結果、その名称を「コーディネーションスタッフ」としたいと思っております。募集は 11 月 30 日（月）までとなっています。コーディネーションスタッフには在宅の地区事務局職員としてコーディネートの補完とコーディネーターのサポートをしていただきます。多くのコーディネーターの皆さまからの応募を期待しています。同封の募集要項をご参照下さい。

3 コーディネート体制検討会議について

骨髄バンクでは、一人でも多くの患者さんがその希望する時期に骨髄移植を受けられるよう、より確実に迅速なコーディネートを目指しています。

ドナーの安全および自由意思を確保しつつ、患者救命のためにさらにどう調整すればよいのかを検討するため、財団の地区事務局代表者、ドナーコーディネート部、移植調整部の担当者と移植施設の院内コーディネーター（クリニカル移植コーディネーター）の方々にもご出席いただき、10月24日に第1回コーディネート体制検討会議を開催しました。コーディネートに対する全員の共通認識を改めて構築し、相互により密に連携できる体制の実現を目的としています。2月のブラッシュアップ研修会においても、コーディネーター、地区事務局、ドナーコーディネート部、移植調整部の全員で意見交換を行い、さらなる連携強化につなげていきたいと考えています。（なお、詳細については後出13をご覧ください）



4 新型インフルエンザ A (H1N1) に関する対応について (続報)

ドナーまたはコーディネーターの新型インフルエンザワクチン接種費用の補助に関する対処方針は、接種時期を問わず(通年)、下記のとおりとします。詳細は、別紙をご参照ください。

ドナーが最終同意後(もしくは骨髄採取日が内定後)に骨髄提供のために新型インフルエンザワクチン接種を受けた時は、その費用の2分の1を財団が助成する。

コーディネーターが新型インフルエンザワクチン接種を受けた場合、その費用を財団が助成する。

なお、新型インフルエンザウイルスに感染した移植患者は、肺炎を発症(重症化)しやすいことを外国の研究者が報告しています。ドナーがインフルエンザウイルスに感染した場合、その骨髄液が患者に移植されることによって、患者がインフルエンザウイルスに感染する危険性があることから、財団から厚生労働省に対して、ドナーおよびドナーと直接的に接触する機会が多いコーディネーターおよび財団職員について新型インフルエンザワクチンの優先接種の要望書およびパブリックコメントを提出いたしました。

これに対して、厚生労働省からは「新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチンの接種については、死亡者や重症者の発生をできる限り減らすこと、およびそのために必要な医療を確保することを目的としている。この点、『ドナー』『コーディネーター』は重症化等のリスクが他の者と比較して高いとは言えないため、優先接種対象者には該当しない」との回答がありました。

5 D L I 適応に関する医療委員会審査について

これまで、全ての D L I 申請に対して、医療委員会で適応の有無を審査してからドナーコーディネートを開始していました。しかし、申請された D L I のほとんどが承認されていること、審査行程(約1週間)を省略し D L I 実施前に死亡・病状悪化で取消す患者を少しでも減らしたいことを理由に、審査を不要とし、コーディネート期間の短縮を目指します。

審査不要の疾患：C M L / M D S / 急性白血病 / 悪性リンパ腫 / 多発性骨髄腫の血液学的再発、及び E B V の B L P D (ただし B L P D で成分採血を希望した場合は要審査)

申請に必要な書類は変わりません。審査が不要な疾患の場合にも、サマリーも含めてご提出下さい。

6 「第4回、第5回 P B S C T に関する委員会」の開催

10月17日および11月8日に第4回目、第5回目の「PBSC T に関する委員会」が開催されました。第4回本委員会では、「末梢血幹細胞(以下、PBSC)の凍結について」と「非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取施設認定基準」が審議されました。

PBSC 採取では、血管確保の問題や、Poor mobilization* などにより移植に必要な細胞数が採取できない可能性があり、また、血縁者間末梢血幹細胞移植(以下 PBSC T)では、採取された PBSC の細胞数を確認した後、患者が前処置を開始するため、移植までの間、細胞の凍結保存が一般的に行われています。

非血縁者間において、移植施設の判断により採取された PBSC の凍結保存も可とすることの必要性が議論され、その場合に解決すべき問題点も挙げられたことから、それらへの対応策を慎重に検討した上で方針をまとめることとしました。次いで、非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取施設が満たすべき認定基準、および導入時における採取・移植認定施設数試算、その後の採取・移植認定施設拡大計画案等について検討されました。

第5回本委員会では、PBSC が骨髄提供かの選択について、患者側の希望をいつ把握するか、それをドナーへ伝えるべきか、伝えるとすればどの時点か、ドナーのどちらにするかの選択はいつどのようになされるべきか、さらに、家族同意の必要性や登録中のドナーへの情報提供方法について議論され、さまざまな意見が出されました。これらについては、再度、論点を整理して審議を継続することとされました。

その他、PBSC 提供後のフォローアップとドナーの方への説明用の DVD 作成について審議されました。

審議の詳細については、財団ホームページに随時アップされる議事録をご参照ください。

注 *一部の健常人ドナーでは P B S C 動員の至適条件でも十分な P B S C が採取できない場合がある。これを

Poor mobilization という。



7 広報推進委員会について

10月20日(火)、第2回広報推進委員会が開催されました。長年続いたACのキャンペーンが終了してマスコミ媒体によるPRがなくなった点や、財団の厳しい財政状況をふまえ、今後の広報活動について検討を行っています。これまで2回開催された分科会も含め、より多くの人へのPRや企業からの支援獲得について、主にインターネットを活用した施策が提案・検討されました。今後、施策の実現に向けて具体的な検討を進めていきます。

8 骨髄採取後、骨盤内(左腸腰筋部位)に血腫を認めた事例について

骨髄採取後、骨盤内(左腸腰筋部位)に血腫を認めた事例が報告されました。当該施設で速やかな処置と対応が行われ、ドナーの方は徐々に回復され、採取後11日目に退院されました。

本事例の原因究明につきましては当該施設において調査されますが、当財団においても調査委員会を設置し、原因究明と再発防止策の策定を行う予定です。なお11月4日に各採取認定施設に対して事例を報告すべく、緊急安全情報を発出しました。財団ホームページにも掲載しています。

<http://www.jmdp.or.jp/> (調整医師は別紙をご参照ください)

9 日本赤十字社においてドナー登録者の一部で「登録保留」が解除されなかった件について

10月30日、標記の件について日本赤十字社より連絡がありました。それによると、コンピュータプログラムの不具合と業務運用に関する人的過誤により、本来「登録保留」が解除され「登録」に復活すべきドナー登録者が「登録保留」のままになっていた事例が発見されたということでした。

本事例について当財団で調査した結果、幸いにも骨髄移植を待つ患者さんへの影響は認められませんでした。患者さんへご心配をおかけしましたこと、並びに当該ドナーの方々のご意思にお応えできていなかったことにつきまして、深くお詫び申し上げます。

なお、本件の詳細につきましては当財団ホームページをご覧ください。 <http://www.jmdp.or.jp/>

10 骨髄バンク支援&イベントのご紹介

「ぐるなび 骨髄バンクチャリティゴルフ大会」

「ぐるなび骨髄バンクチャリティーゴルフ大会」が12月7日(月)、戸塚カントリー倶楽部で開催されます。(株)ぐるなびの社会貢献活動の一環として開かれる本ゴルフ大会は今年で5年目を迎え、趣旨に賛同された100名を超える方々の参加が予定されています。

「中溝裕子骨髄バンクチャリティーゴルフコンペin関東」

当財団の評議員でもあるプロゴルファーの中溝裕子さんが、11月に続いて骨髄バンクチャリティーゴルフを開催します(12月3日(木)、ヌーヴェルゴルフクラブ)。女子プロゴルファーも含め、150名以上の参加が予定されています。

「Vリーグ開幕」

バレーボールVリーグの「2009/10プレミアリーグ(&チャレンジリーグ)」が11月28日(土)に開幕します。試合会場ではドナー登録を呼びかけるチラシやギフトオブライフの配布など、骨髄バンク支援活動が行なわれます。

舞台「友情」ロングラン公演決定

白血病に冒された女子中学生とクラスメートの友情を描いた舞台「友情～秋桜のパラード～」の81回におよぶ公演が、2010年1月5日～2月28日の55日間、銀座博品館劇場で行われます。また、来年5月からは全国での公演が予定されています。舞台「友情」は1999年11月の初演以来、公演回数357回を数え、骨髄バンクの普及啓発に大きなご協力をいただいています。

*お問合せ：劇団絵生(えき) TEL 03-5427-1822(受付時間 10:00～18:00)



11 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開・一部非公開	11月19日(木) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室
PBSCTに関する委員会	公開	12月13日(日) 15:00～ 廣瀬第1ビル2階会議室
常任理事会	公開・一部非公開	12月17日(木) 17:30～ 廣瀬第2ビル地下会議室

ドナーコーディネーター関係者のコーナー

以下は、調整医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

12 平成21年度コーディネーター養成研修会受講生募集について

コーディネーター件数の増加、扶養控除範囲内での活動制限や、一部地域でのコーディネーター絶対数の不足から、特に緊急性のある地区においてコーディネーター養成研修会を開催することとし、10月の常任理事会で審議、承認されました。健全な社会常識をもたれ、収入の変動にかかわらず、この仕事を社会貢献的にとらえて取り組める人(主婦や、定年退職後に社会貢献活動を考えている方など)を中心にご応募を募りたいと考えています。お知り合いや、周囲にコーディネーター養成研修会受講者としてご推薦いただける方がいらっしゃいましたら、是非とも応募のお声がけをお願いします。募集に関する詳細は別紙「募集要項」をご参照ください。

募集要項については財団ホームページでもご覧になれます。<http://www.jmdp.or.jp>

< 募集概要 >

募集地域(以下の地域で活動できる方)

関東地区(新潟、長野)	若干名
中部地区(静岡、愛知、三重、石川)	5名
近畿地区(京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、滋賀)	10名
中四国地区(山口、島根)	若干名
九州地区(福岡、佐賀、長崎、大分)	6名

応募締切：平成21年12月16日(水) 必着

応募資格：原則 25歳以上の健康な方で、骨髄バンク事業を理解しコーディネーター業務を最優先できる方。ただし、骨髄移植適応患者やその家族、または特定の患者の支援活動をしている方は除きます

(応募者は書類選考後、集合研修、各地区での実地研修、地区集合研修、試験等を行います)

13 地区事務局、初期担当、ドナーコーディネーター部、移植調整部の合同会議での確認事項

前述3のとおり、10月24日に上記合同会議が開催されました。ドナーコーディネーター関連で確認された、以下の事項について、地区事務局、およびコーディネーターの皆さまにはあらためてご確認いただき、徹底していただくようお願いします。

ドナー不都合時期が長期の場合

採取が想定される時期にドナーが長期にわたり不都合あることがわかった場合、コーディネーターは地区事務局に報告する。地区事務局は移植調整部に連絡し、移植調整部は担当医師にコーディネーターの進行について確認する。コーディネーターや地区事務局が、ドナーにどの程度先の不都合期間まで



伺うかについては、半年を目安とするが、各地区の状況に応じて調整する。また確認検査面談時に新たに長期の不都合時期が判明した場合、コーディネーターは採血の前に地区事務局に相談する。地区事務局は必要に応じ、移植調整部に電話で採血の可否について問い合わせをする。

調整がスムーズでないと予想される場合

最終同意面談日程調整が難航しそうなときや、進行についての不安要素がある場合は、コーディネーターからの報告に基づき、地区事務局は移植調整部により積極的な情報提供を行う。移植調整部は移植医に情報を提示し、日程的なロスを最低限にとどめ、最適なドナーでのコーディネートを進めていくこととする。

最終同意面談の迅速な設定

ドナー選定後は、採取が数ヶ月先になる見込みであったとしても、地区事務局、コーディネーターはドナーの個別事情を配慮しつつ、迅速な最終同意面談の日程調整を心がける。これは、同意が確認できなかった場合には、別のドナーとの調整をやり直さなくてはならず、患者にとって時間のロスになることなどが理由。

患者希望とドナー不都合時期が重なった場合

患者都合で採取延期になり日程を再調整する際など、もともとのドナーの不都合時期と患者の採取希望時期が重なり、調整困難が予想される場合であっても、一旦はドナーへの日程の相談を試みる。実際に調整可能となった例もあり、その際どういう聞き方をすればドナーにプレッシャーを与えず、スムーズに相手の気持ちを引き出せるかについて、研修会などで検討し共有する。（例：「不都合とお聞きしていましたが、念のためにお伺いします。月は難しいでしょうか。実は月は患者さんのご事情で採取が困難になりました」など。

14 コーディネーターの委嘱更新手続きについて（コーディネーターの皆さまへ）

2010年3月末で委嘱期間が満了となることに伴い、委嘱更新の審査手続きを開始します。

コーディネーターの皆さまには、今後のスケジュールや提出物などについてのご案内を今月下旬までにお送りしますが、小論文と自己申告書を提出していただく予定です。小論文は12月18日（金）までにドナー部宛、自己申告書は12月22日（火）までに各地区事務局宛、それぞれ必着とします。

15 連絡事項

中四国地区事務局の移転と一部業務休止について

中四国地区事務局が移転することになりました。新事務局での業務は、11月24日（火）9時から開始になります。住所は下記のとおりです。電話番号・ファックス番号は変更ありません。

中四国地区事務局では移転準備のため11月20日（金）15時から11月23日（月・祝日）まで一部業務を休止させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

〒730-0052 広島県広島市中区千田町2-3-21 サワムラビル201

T E L / 082 - 240 - 0297 (変更なし) F A X / 082 - 240 - 0298 (変更なし)

年末年始の確認検査・再検査の実施とSRLへの予約について

年末年始の確認検査・再検査実施可能期間は下記のとおりです。

年内・・・確認検査は、12月25日（金）まで、再検査は、12月28日（月）まで

年始・・・確認検査・再検査ともに、1月5日（火）から

SRLの予約については、下記のとおりご対応くださいますようお願いいたします。

・1月5日～7日採血希望の場合は、12月24日（木）16：00までです。

（北海道、中四国、九州地区は、14：30までとなります。）

年末年始の検体保存事業の受付について

年末・・・12月25日（金）まで東海大必着

北海道・九州地区は12/22（火）までに、それ以外の地区は12/24（木）までに発送をお願いします。

年始・・・1月5日（火）採血・発送分から受付可能